

かえるのふゆごし

2年 せつめい文 2ばん

なまえ

夏の^{なつ}間^{あいだ}、田^たんぼや池^{いけ}で元^{げん}氣^きに鳴^ないていたかえるは、冬^{ふゆ}になるとすがたを見^みせなくなりま^す。どこへ行^いくのでし^{よう}うか。

じつは、かえるは土^{つち}の中^{なか}で冬^{ふゆ}をこしています。秋^{あき}のおわ^りに土^{つち}をほつてもぐり、春^{はる}が来^くるまでじつとねむるのです。これを「冬^{ふゆ}みん」といいま^す。

冬^{ふゆ}みんの間^{あいだ}、かえるはほとん^どうごかず、何^{なに}も食^たべま^{せん}。体^{からだ}の力^{ちから}をあまりつかわな^いた^めです。こうして、さむい冬^{ふゆ}をのりこえるのです。

春^{はる}になつて土^{つち}があたたく^なると、かえるは目^めをさま^して出^でてきま^す。そして、また田^たんぼや池^{いけ}で鳴^なきはじめま^す。



(1) 「じつと」のいみに合^あうものを一つえらび、記^きごうに○をつけま^しよう。

ア 大^{おお}きな声^{こゑ}で鳴^なくよう^す

イ うごかないで、そのま^まい^るよう^す

ウ あちこち歩^{ある}きま^わるよう^す

エ いそいで走^{はし}るよう^す

(2) かえるは、どこで冬^{ふゆ}をこしていますか。一つえら^び、記^きごうに○をつけま^しよう。

ア 池^{いけ}の水^{みづ}の上^{うへ}

イ 木^きのえだの上^{うへ}

ウ 石^{いし}の上^{うへ}

エ 土^{つち}の中^{なか}

(3) 春^{はる}が来^くるまで、土^{つち}の中^{なか}でじつとねむることを、何^{なん}といいま^すか。文^{ぶん}し^{よう}から三^{さん}字^じで書^かきぬきま^しよう。

(4) 冬^{ふゆ}みんの間^{あいだ}、かえるがほとん^どうごかないのは、なぜで^すか。書^かきま^しよう。

書^かき方^{かた}のヒント

三^{みつ}つ目^めのだんら^くの二^{ふた}つ目^めの文^{ぶん}を見^みてみ^よう。

「うため。」でおわ^らせる。

かえるのふゆごし

こたえ

2年 せつめい文 2ばん

なまえ

夏の^{なつ}間^{あいだ}、田^たんぼや池^{いけ}で元^{げん}氣^きに鳴^ないていたかえるは、冬^{ふゆ}になるとすがたを見^みせなくなりま^す。どこへ行^いくのでし^しょうか。

じつは、かえるは土^{つち}の中^{なか}で冬^{ふゆ}をこしています。秋^{あき}のおわ^りに土^{つち}をほつてもぐり、春^{はる}が来^くるまでじつとねむるのです。これを「冬^{ふゆ}みん」といいます。

冬^{ふゆ}みんの間^{あいだ}、かえるはほとん^どうごかず、何^{なに}も食^たべません。体^{からだ}の力^{ちから}をあまりつかわな^いた^めです。こうして、さむい冬^{ふゆ}をのりこえるのです。

春^{はる}になつて土^{つち}があたたか^くなると、かえるは目^めをさま^して出^でてきます。そして、また田^たんぼや池^{いけ}で鳴^なきはじ^めま^す。



(1) 「じつと」のいみに合^あうものを一つえらび、記^きごうに○をつけましよう。

ア 大^{おお}きな声^{こゑ}で鳴^なくようす

イ うごかないで、そのま^まい^いるようす

ウ あちこち歩^{ある}きまわるようす

エ いそいで走^{はし}るようす

(2) かえるは、どこで冬^{ふゆ}をこしていますか。一つえらび、記^きごうに○をつけましよう。

ア 池^{いけ}の水^{みづ}の上^{うへ}

イ 木^きのえだの上^{うへ}

ウ 石^{いし}の上^{うへ}

エ 土^{つち}の中^{なか}

(3) 春^{はる}が来^くるまで、土^{つち}の中^{なか}でじつとねむることを、何^{なん}とい^いいますか。文^{ぶん}し^しょうから三^{さん}字^じで書^かきぬきましよう。

冬^{ふゆ}みん

(4) 冬^{ふゆ}みんの間^{あいだ}、かえるがほとんどうごかないのは、なぜですか。書^かきましよう。

(れい) 体^{からだ}の力^{ちから}をあまりつかわ^ないた^め。

書^かき方^{かた}のヒント

三^{みつ}つ目^めのだんらくの二^{ふた}つ目^めの文^{ぶん}を見^みてみよう。

「くため。」でおわらせる。

解答・解説 かえるの ふゆごし（2年・せつめい文）

もん 問1 イ

二つ目の だんらくに「^{はる}春が^く来るまで じっと ねむるのです」と ^か書いて あります。うごかないで、そのまま いる ようです。

もん 問2 エ

二つ目の だんらくに「かえるは土の ^{つち} 中^{なか}で ^{ふゆ}冬を こしています」と ^か書いて あります。

もん 問3 冬みん

二つ目の だんらくの さいごに「これを『^{ふゆ}冬みん』と いいます」と ^か書いて あります。

もん 問4 （れい）体^{からだ}の 力^{ちから}を あまり つかわない ため。

三つ目の だんらくに「体^{からだ}の 力^{ちから}を あまり つかわない ためです」と ^か書いて あります。「力^{ちから}を つかわない ため」「力^{ちから}を つかわない ようにする から」などが ^か書けて いれば ○ です。